

じゅしゅう

春季彼岸会 厳修

三月二十一日(祝)春の彼岸会をおつとめさせていただきました。その当日まで、まん延防止等重点措置がとられておりましたが、この度の波が少し収まりつつあるということで、法要を開催することができました。もちろん感染防止対策を整えてです。

ご講師には兵庫県西宮市より四夷法頭先生をお招きしお聴聞させていただきました。ご讚題は「安樂浄土にいたるひと、五濁悪世にかへりては、釈迦牟尼仏のごとくにて、利益衆生はきはもなし」親鸞聖人のご和讃です。「阿弥陀さまのご本願のはたらきによって、

お浄土に往生し仏さまと成らせていただいたものは、大いなる慈悲のこころをおこし、再びこの迷いの世界に還り来て、迷いのなかで苦しむ一切の生きとし生けるものを自在に救うはたらきをしていく。」そのような聞かせていただきます。お盆やお彼岸の法要では、特にご先祖を偲びながらのおつとめとなります。同じような意味に「亡き方を弔う」という言葉があります。親鸞聖人は「弔う」ではなく「訪う」という字を同じ読み方で使われています。亡き方の思いを訪ねていくということが弔うという意味なのだと思えます。

第36号
(通算376号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

浄覚寺ヨガ教室

- ・4月20日(水) 10時~11時半
- ・参加費500円
- ・浄覚寺本堂にて

☆ヨガマットの貸し出しもありますので、お気軽にご参加ください。

ご讚題に、お浄土に往生し仏さまに成らせていただくことがあります。「仏に成る」とはどういうことでしょうか。人が亡くなるということか。人が仏に成るといふことではないでしょうか。仏に成るとは、お浄土に生まれさとりを得て、尚且つ再びこの娑婆世界に還りて残された者を念仏の教えに導いていくはたらきを持つことです。道禪禪師は『安樂集』に「前に生まれん者は後を導き、後に生まれん者は前を訪え。」という言葉を残されました。先に亡くなったのかれたご先祖は、私に何を願う



ておられるのか。また、大切な人を残して先に亡くなっていたかねばならないとき、後の者に、私は何ができるのか。浄土往生が私にとつてのゴールではありません。そこから始まる喜びや安心があるからこそ、それも私の救いとなります。四夷先生のご法話を収録し、YouTube(浄覚寺チャンネル)に載せました。いつでも見ることができまので、お聴聞なさってください。

<https://youtu.be/NVSSjhdJfE30>



世のなか

安穩なれ

仏法ひろまれ

『親鸞聖人御消息』



御文章に聞く(第32回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

信心獲得章(五帖第五通)
 悪業、煩悩、無始以来つくりとつくる
 願力、不思議をもつて消滅す
 不退の位に住すとなく、正定聚
 よりて・煩惱を断ぜずして、涅槃
 槃をうといえるは、この途の所談
 り、この義は、他流の一人に對し
 なるものなり、沙汰あるべか
 て・かくのごとく、よくよく、
 らざるところなり、よくよく、
 こころうべきものなり、
 あなかしこ あなかしこ

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきたいと思います。今月からは後半部分に移っていきます。まずは大意から確認していきます。「このことは、はてしない昔より造り重ねてきた悪業や煩惱を、残らず不可思議の願力によって消滅してくださることをあらわします。それと共に、正定聚、不退の位に住せしめていただくことでもあります。「正信偈」に「煩惱を断ぜずして涅槃を得る」と述べられたのも、この本願力の不可思議なはたらきをあらわすためでした。この教えは浄土真宗独自の教えですから、浄土真宗以外の人に不用意に述べては誤解をまねきまずから、よくよく注意せねばなりません。」

私たちのいのちは、急に誕生したわけではありません。生まれかわり、死にかわりしながら、ずっとつながってきています。その始まりを知り得ないほどの限らない過去から、という意味で「無始以来」という言葉が使われています。

仏教語辞典



京都の宇治にある黄檗宗の本山、萬福寺を建立した隠元が中国から輸入した豆。胡麻和えや肉巻きが美味しい。隠元は他にも木魚のもととなる魚板等も輸入したといわれている。

インゲン豆

『気になる仏教語辞典』
 著・麻田弘潤 誠文堂新光社
 仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届け致します。昨年から今年にかけて、聖徳太子千四百年のご法事が仏教界全体で執り行われております。太子は日本に仏教を伝来させ、仏教的価値観をもとに日本の国づくりを行いました。その政治の中心にある考え方が、十七条憲法の第一条「和らぎを以て貴しと為す」と、第二条「篤く三宝(仏・法・僧)を敬え」です。和を大切に、人と諍いを起こさないようにする。その依りどころとなる仏教を信仰すべきである。という考え方が根底にあります。世界中が平和で安心して暮らすことができるよう、願っております。(釋法道)



年間法要行事に予定しています、顕証寺さまの蓮如忌法要参拝ですが、連絡がおり次第、ご案内させていただきます。

行事案内

日時・四月十六日(土) 十四時・十九時
 十七日(日) 十四時のみ
 行事・報恩講法要
 場所・長原浄覚寺
 法話・中西昌弘先生(大阪)

〈三年ぶりの報恩講法要です。ぜひお参りください。〉
 (なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます。)

